

石川県立美術館だより

平成17年5月1日発行 第259号

石川県立美術館の精華 - 近年の収蔵品から -

4月23日(土)~5月15日(日)会期中無休

開館時間：午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

金曜日のみ、午後8時まで(入館は午後7時30分まで)



石川県指定文化財 源氏物語図屏風 伝岩佐又兵衛



東海道五十三次之内 蒲原 歌川広重



石川県指定文化財 蒔絵螺鈿白楽天図硯箱 尾形光琳

目次

石川県立美術館の精華	2・3	図書閲覧室NOW、VOICE	6
春の優品選	4	ミュージアムレポート、人事異動.....	7
加賀・能登の名宝.....	4	5月の行事案内	7
今月のコレクション展示室 主な展示作品...5		所蔵品紹介、次回のコレクション展.....	8
展覧会回顧(加賀藩前田家伝来・能面と能装束...)...6		ミュージアムショップ通信	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9展示室)

4月23日(土)~5月15日(日)会期中無休

開館時間：午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)
金曜日のみ、午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

主な出品作品

古美術(第7展示室)

色絵芦翡翠図平鉢 松山窯
蒔絵螺鈿白楽天図硯箱

尾形光琳

石川県は、江戸時代から加賀藩主前田家の保護育成政策により文化の華が開き、その伝統が今日まで継承されています。そして作家の層が厚く、水準の高い美術工芸の盛んな地域として知られています。当館はその伝統的な芸術的個性を生かした地方色豊かな美術館として、親しまれてきました。

作品の収集も積極的に進んでいます。地域文化の集積を目指して、古美術品や石川県にゆかりのある作家の作品を中心に集めており、収蔵品数はすでに二八六〇点(平成十七年三月三十一日現在)を数えています。平成六年には『所蔵品図録』を発行しましたが、その後も毎年寄付や購入により増え続け、二年前には追録版も出しました。こうした収蔵品は、主に常設展示室(現コレクション展示室)でご紹介しています。しかし、新しい収蔵品をまとめてご紹介する展覧会は、これまで開催する機会がありませんでした。

また当館の事業の一つに「保存修復」があることをご存じでしょうか。展覧会に比べると地味で目立たない仕事ですが、大変重要な部門です。平成九年に当館付属施設として設置された石川県文化財保存修復工房では、文化財等の保存修復や、それらに関連する調査研究、そして文化財修復技術者の育成などが行われています。当館収蔵品についても、より良好な状態で保存・展示が行えるように、必要な作品には復元を含めた保存修復が行われているのです。

そこで本展では、当館の作品収集と保存修復事業への理解を深めていただくため、ここ十年間の新収蔵品(古美術と近現代絵画・彫塑・工芸各部門)と修復作品を一堂のもとに展示するとともに、改めてご寄付下さいました皆様への感謝の意を表したいと思います。



湖畔のはす田 森本仁平



風流子宝合 喜多川歌麿



花色裾紫系威六枚胴具足



経堂への道 石川 義



マライの少女 宮本三郎

石川県立美術館の精華

- 近年の収蔵品から -

住吉時絵硯箱

黒漆打刀拵

花色裾紫系威六枚胴具足

源氏物語図屏風

武蔵野図屏風

浮世絵版画

重要美術品 石川県指定文化財

門前町指定文化財

伝岩佐又兵衛

近現代工芸（第8展示室）

耀彩鉢「極光」

釉裏金彩大山蓮花文鉢

雷鳥の図箱

乾漆蓋物「輪々」

大身槍 日本号写

砂張銅鑪

桑縁箆組風炉先

截金彩色合子「西」

友禅訪問着「あじさい」

近現代絵画・彫塑（第9展示室）

太夫

経堂への道

河のある街

望郷を歌う（故高英洋に）

湖畔のはす田

連理

マライの少女

Miserere

飛

三代徳田八十吉

吉田美統

寺井直次

塩多慶四郎

隅谷正峯

三代魚住為楽

氷見晃堂

西出大三

木村雨山

坂根克介

石川 義

山本知克

鴨居 玲

森本仁平

脇田 和

宮本三郎

中村晋也

清水良治

観覧料

観覧料	個人	団体（20名以上）
一般	800円	600円
大学生	600円	400円
高中小生	300円	200円

コレクシヨンプレゼンテーションを含む全館料金です。当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金で、ご覧になれます。



金胎牡丹時絵箱 寺井直次



樹間に遊ぶ 色絵飾皿 二代浅蔵五十吉



望郷を歌う（故高英洋に） 鴨居 玲



Miserere 中村晋也

関連事業

講演会（聴講無料）
 講師 嶋崎 丞（当館館長）
 演題 県立美術館コレクシヨンプレゼンテーション ことば話
 日時 5月3日（火・祝）午後1時30分
 場所 当館ホール
 学芸員によるギャラリートーク
 4月24日（日）、5月1日（日）、8月8日（日）の午前11時から企画展示室で行います。（展示会のチケットが必要です。）
 川口法男氏（修復家）による修復作品についてのギャラリートーク
 5月15日（日）の午前11時から第7展示室で行います。（展示会のチケットが必要です。）

今月のコレクション展示室 (前田育徳会展示室)

特集

春の優品選

4月21日(木)~5月15日(日)

加賀藩前田家に伝わる文化財を、毎月テーマを設けて展示公開していますが、今回は大藩の藩主として、また武将としての格式ともいえる「文武両道」の精神を、今回展示する一九件の絵画や工芸品のなかに感じ取っていただこうとするものです。それでは主な作品を紹介いたします。

越中愛本橋図 佐々木泉玄筆

寛文元年(一六六一)、綱紀は初めて江戸より加賀へ入部しました。その際に黒部川は難所といわれ、しばしば氾濫し、また橋がなくて村人や旅人が困っていることを知り、橋の架設を命じたのです。老臣たちは、それは防備上好ましくなく、難工事で多額の費用を要すると反対します。しかし綱紀はたとえ立派な要塞であつても、民の心を失うことは善政にはならないという理になつた意見で老臣たちを納得させたのです。長さ三十三間の美しいはね橋(材木を八の字型に跳ね出すようにして両岸に埋設し、それを支えとして中央に梁を渡して組み合わせた橋脚を用いない工法)は寛文二年に完成し、付近の地名に因み「愛本橋」と名付けられました。この難事業を進めた綱紀の善政を讃えるために、後に、佐々木泉玄に描かせたものです。愛本橋の姿が溪谷の春景とともに美しく描かれています。

観音羅漢像 白隠筆

白衣観音と十六羅漢がユーモラスに描かれています。独自の書との融合による白隠の作品は、その破格の禅風と人間味が余すことなく発露されています。画面上部に「慈眼視衆生福寿海無量」と賛がありますが、『法華経』「観世音菩薩普門品第二十五」の一節で、観世音菩薩の無量無限の衆生救済を示しています。

小石畳地宝珠形鳳凰雲文様金襴(興福寺金襴)

この金襴は古渡りよりもさらに古い「根抜け」といわれ、格別に珍重されてきたものです。地色は紫で、細かい小石畳の地紋のある経三枚綾地に、互の目に配された宝珠形の雲文内に、鳳凰の姿を表した風格のある裂地です。もと興福寺の帳に使用されていたという伝承からこの名称があります。「名物裂」は三代藩主利常の蒐集です。

第二展示室において、六月中旬まで開催する「加賀・能登の名宝」では、本館に寄託される社寺・個人所蔵の国宝・重要文化財などの指定文化財を中心に紹介します。本日よりでは、前期は加賀・能登の寺宝を展示します。

北陸地方は、十三世紀以降に初期曹洞宗が発展した地として知られています。道元が越前に開いた永平寺に始まり、徹通義介が加賀に開いた大乘寺へ続き、能登の永光寺・総持寺と至ります。特に加賀の大乘寺は、「曹洞宗第二の本山」とも称され、本寺には初期曹洞宗に関わる道元関連文書など、貴重な資料が伝えられています。特に、道元が一夜にして書写したと伝えられる通称「一夜碧巖集」(正式名称「佛果碧巖破閑撃節」)など五点は、重要文化財に指定されています。

また、大乘寺など禅寺では、師資相伝の証として、師の肖像画が伝えられます。これが頂相です。その多くは、法被がかけられた曲茶と呼ばれる椅子に、衲衣と袈裟を着て座る姿で、右手に仏子や竹筒を持っています。徹通義介・明峰素徹(以上大乘寺蔵)・祖継大智(鶴林寺蔵)など、室町時代中期に描かれた頂相からは、厳しさやおらかさといった人柄や、これらが受け継がれた長い歴史をうかがうことができます。

慶長十八年(一六一三)に加賀藩土生駒直方によって、臨済宗妙心寺派の密蔵宗顕を開山として建てられた高蔵寺も、歴代頂相が伝わることで知られています。特に、密蔵宗顕微鏡の師である仁宿和尚と淳蔵和尚の頂相は、慶長年間に描かれた優品で、袈裟の彩色などに桃山時代の名残を見ることができま

す。本特集では、その他、七尾美術館で長谷川等伯の国宝「松林図屏風」が展示されることにあわせて、等伯・能登信春時代の「十六羅漢図」(霊泉寺蔵)と、大乘寺に伝わる等伯の子・左近による「十六羅漢図」を紹介します。

今月のコレクション展示室 (第2展示室)

特集

加賀・能登の名宝(前期)

4月21日(木)~5月15日(日)



大智禅師画像

今月のコレクション展示室 主な展示作品

4月21日(木)~5月15日(日)

● = 国宝 = 重要文化財 = 重要美術品
= 石川県指定文化財



春蘭 小糸源太郎

前田育徳会展示室

特集 春の優品選

- 越中愛本橋図
- 観音羅漢像
- 黒塗村梨子地桜寿帯鳥文時絵鞍・鏡
- 女三十六歌仙色紙雑図屏風
- 蒔絵三十六歌仙花卉文提重
- 天賜若松山吹蒔絵書棚

佐々木泉玄
白隠

第1展示室

● 色絵雄雉香炉

色絵雌雉香炉

野々村仁清
野々村仁清

第2展示室

色絵布袋図平鉢 古九谷

青手樹木図平鉢 古九谷

特集 加賀・能登の名宝(前期)

- 佛果碧巖破閑撃節上下(一夜碧巖集)
- 羅漢供養講式稿本断簡 希玄道元
- 韻州曹溪山六祖師壇経
- 三代嗣法書
- 支那禪刹図式(寺伝五山十刹図)
- 大智禪師画像
- 大乘寺蔵
- 大乘寺蔵
- 大乘寺蔵
- 大乘寺蔵
- 鶴林寺蔵

第3・4展示室(油彩画・素描・彫塑)

油彩画

1982年 私

- 春蘭
- 馬に凭る(B)
- ペギーの道
- 黒いタイツ
- 熱叢夢
- 素描
- 裸婦
- タイ・ビルマスケッチ(人物・風俗)
- 鴨居 玲
- 小糸源太郎
- 高光一也
- 藤本東一良
- 南 政善
- 宮本三郎
- 鴨居 玲
- 高光一也

第5展示室(工芸)

陶磁

色絵更紗文蓋付飾壺

漆工

平文花文小筆筒

染織

友禅訪問着「石橋」

金工

砂張銅鑪

木竹工

神代櫻盛鉢

截金

截金彩色八花香盤「御法」

第6展示室(日本画)

午睡

鯨談義図

桜下人物図

残照

寂光

長江の朝

観覧料

阿蘇

東京タワー

女優像

彫塑

スパイラルリング 3

話

風

大将の椅子

西山英雄

南 政善

宮本三郎

木戸 修

坂 坦道

得能節朗

富永直樹

富本憲吉

大場松魚

木村雨山

初代魚住為楽

川北浩一

西出大三

稲元 実

大沼憲昭

紺谷光俊

西山英雄

浜出青松

横山大観

一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	
		高校生以下は 無料	



残照 西山英雄



色絵更紗文蓋付飾壺 富本憲吉



スパイラルリング 3 木戸 修

展覧会回顧

特別陳列

加賀藩前田家伝来 - 能面と能装束 -



前田育徳会展示室と第2展示室において開催した本特陳では、前田家伝来の能面15点と能装束30点のほか、面箱など計47点を展示しました。今回は前田育徳会と

本館に所蔵される作品だけでなく、前田家より県内の神社へ奉納された面と装束や、昭和初期の売立によって他家へ流れた装束も含めて、広く紹介しました。

能装束の見所は、その華麗な美しさにあることはもちろんですが、今回は装束に附される畳紙墨書を頼りに、この装束が「どうして仕立てられたのか?」「誰が使用したのか?」「どんな曲に用いたのか?」といった歴史的背景もあわせて紹介しました。それにより、加賀藩前田家の能楽

史を、もっと立体的にイメージしていただきたい、特に、前田育徳という藩主の姿を、能における交遊録から浮かび上がらせてみたい、と思ったからです。このことは、だよりや目録、講座などにおいて、更に詳しく紹介しましたが、毎年恒例の「能面と能装束」の展示とは異なる視点とあって、既に本館の能装束についてご存知の方々も、大いに関心を持ってくださいました。

また、会場にて配布した8頁のカラー目録の作成にあたっては、作品の写真はもとより、用語解説から育徳に関するコラムまで、はじめて読まれる方にもわかりやすいよう、丁寧な解説を心がけました。ご好評をいただいた本目録は、会期が終了した後も楽しくお読みいただけると思います。

準備期間中には、新たな前田家伝来能装束に触れる機会も多く、担当者自身も更に育徳に一步近づいた(?)気分です。次回(いつになるかわからない)は、本館や育徳会にはあまり所蔵されない狩衣、または長絹のみを紹介する展覧も行えたらなあ・・・と野望を抱いております。

(村上尚子 学芸主任)

図書閲覧室NOW

当館では昨年から、月に1回程度、キッズ鑑賞講座を開いたり、夏休みには「親子で楽しむ美術館」をコレクション展示室で開催するとともに、関連したワークショップを行うなど、子どもを対象にしたプログラムを企画してきました。近年、美術館活動のなかにおける教育普及活動の役割が重要視され、学校教育との連携を深め、子どもたちにとって美術館が、より身近な存在となるための試みとして、取り組んできたわけです。

そうした活動の一助とするべく、子どもが気軽に美に親しめるような図書の閲覧も、さらに力を入れていきたいと考え、今年度から図書閲覧室の一角に、「子どものための美術の本」コーナーを設けましたので、自由に閲覧していただきたいと思います。数はあまり多くありませんが、大人でも楽しめる本がありますので、一度閲覧室を覗いてみてはいかがでしょうか。また、お子さんと対話しながらゆっくり閲覧したいという方は、親子で利用される場合に限り、職員に申し出ていただければ、一階ロビーでの利用も可能ですので、ぜひご利用下さい。なお、館外の貸し出し、コピーサービスは行っておりませんので、どうぞご了承下さい。

<主な開架図書>

「はじめてであらう絵画の本」(全十六巻) / あすなる書房

「楽しい美術図鑑」(全六巻) / 偕成社

「子どものための美術入門」(全六巻) / くもん出版

「伝統を作る」(全四巻) / 学習研究社

「しかけえほん びっくりいるあそび」 / 大日本絵画

「ミッフィーのたのしいびじゅつかん」 / 講談社

「びじゅつのゆうえんち うごく浮世絵」 / 福音館書店

ほか

開室時間は午前9時30分～午後4時30分。

VOICE



皆様からご意見をいただきました

3月12日、友の会会員にお集まりいただいて、「改修工事の説明会」を行いました。当日は「美術館がどうなるか」「友の会はどうするの」という懸念をお持ちの方々が大勢いらっしゃって、多くの質問が寄せられました。

館からの説明では、当館は昭和58年の開館から20年余り経過して、電気や空調機器の取り替えの時期にきており、平成18年度にどうしても改修の必要があることが示されました。開館当初から見ると2倍以上にふくれあがった所蔵品を保管する収蔵庫の増設も必要となり、工事期間は1年を超えることになりそうです。その間、美術館は休館となり、ご利用の皆様にご迷惑をおかけすることとなります。

友の会は、例年どおりに募集し、会員期間を18年4月から20年3月までの2年間とする予定です。リニューアルして新しい企画を、真っ先にお届けできるようにこの年に限り、会員期間を延長します。また休館中は、美術館での行事ができないため、外部の施設を使っでの移動展や講座などの催し物ができないか検討しています。

また1月に行った「アンケート」には、会員の半数を超える670名の方から回答を寄せていただきました。毎月の展示替をご存知ない方が1割超で、特別陳列や特集以外は一緒と思っていらっしゃる方が半数にのぼりました。夜間の開館を望む声は、4割ほどで、延長しなくても定休日がない今の形を望む方が半数でした。希望する展覧会は、広い分野に渡り、現在のあり方が肯定的でした。行事では、「文化財現地見学」「講演会」の関心が高いという結果でした。ご協力ありがとうございました。

ミュージアム レポート

キッズ 鑑賞講座

3月5日(土) 「宮本三郎と鴨居玲」



小学生を対象に常設展示室を使用して、鑑賞講座を開講しておりますが、今回は「宮本三郎と鴨居玲」です。

二人の画家の生い立ちを説明したあとすぐに展示室に行き、それぞれの画家の作品から受ける印象など聞きました。宮本三郎の「裸女達に捧ぐ」を見て、赤がとってもきれいで優しい感じがするという子や、音楽が聞こえてきそうという子もいました。鴨居玲の「1982年私」をみてどう思っかたずねたところ、何を描こうか迷っているという子、心の目が閉じていて、何も描けないという子もいて、子供の感性の鋭さに驚かされました。それから、この絵の中に登場する人物を、展示室にある他の絵の中から探すクイズはみんな真剣になって探し、鑑賞会の1時間はあっという間に経ちました。

次回の鑑賞講座は5月7日(土)「石川県立美術館の精華を鑑賞しよう」です。この機会に私たちとたくさんの美術に親しみましょう。

ギャラリートーク

3月19日(土) 「宮本三郎と鴨居玲」



宮本と鴨居という2大スターの競演、一部屋で開くのはもったいないのではという声もあったのですが、実際に展示いたしますと、作風の違い、明と暗との対照が実にくっきりと打ち出た特集となり、いいじゃないかと膝を打ったものでした。共に人物を題材に、“愛”を主題として画業が展開していくのですが、表現の仕方がまるで正反対です。宮本は美しいものをあくまでも美しく楽しく、一方鴨居は醜(しゅう)を通して美を求め続けるのです。

二人の絵はドラマ性が強く、絵の前に立つと語るべきこ

とがいろいろと思ひ浮かんできます。担当者の弁では、まず師である宮本、そして宮本と鴨居の関係、それから鴨居と、二人の経歴や作風の変遷など、順を追って説明していると考えていたのですが、作品を前にすると、絵に魅せられて経歴などは吹き飛び、美味しいごちそうを見境もなくつつくという具合になったとのことでした。

でも皆さん熱心に作品と画家の遺品をご覧になられ、また宮本の戦争画や鴨居の色などについて、熱い質問が寄せられました。トーク後には晩年の鴨居と交友をもたれた方から、いろいろエピソードをお聞かせいただき、大変勉強させていただきました。

人事異動

今年度の当館人事異動は下記の通りです。

転入

総務課

企画管理専門員 七野啓一(金沢県税事務所納税課より)

嘱託 田中昭美(歴史博物館総務課より)

学芸課

学芸主査 北澤 寛(文化振興課より)

転出

総務課

主幹 萩原正憲(県立大学事務局総務課へ)

学芸課

学芸専門員 前田武輝(文化振興課へ)

新規採用

総務課

嘱託 山田昌次、塩谷成一、瀧窪幸次、紺野幸夫、

岸 信治、大林有美子、片岡昌美

退職

総務課

嘱託 津田賢一、信田興平、北方秀和、田中久蔵、

泊 雄平、横井雅代、清水真紀

5月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内容	会場
5/1(日)	月例映画会	金沢漆器(29分) 能登上布(30分)	ホール
5/3(火・祝)	講演会	石川県立美術館 コレクション こぼれ話 講師:嶋崎 丞(当館館長)	ホール
5/7(土)	キッズ プログラム	石川県立美術館の精華を鑑賞しよう (西ゆう子 学芸主任) 小学生対象の講座です。コレクション展示を鑑賞しながらの講座になります。	講義室
5/8(日)	ビデオ鑑賞会	国宝17 春日大社・熊野速玉大社(31分)	ホール
5/14(土)	美術講座	琳派 石川県立美術館のコレクションを中心に (村瀬博春 学芸専門員)	講義室
5/15(日)	月例映画会	山中漆器(29分) 金箔(26分)	ホール
5/21(土)	ギャラリートーク	甲冑と陣羽織 (北澤 寛 学芸主査) 展示室内で行われるため、コレクション展示の入場券が必要です。	コレクション展示室
5/22(日)	ビデオ観賞会	国宝18 慈照寺銀閣・西本願寺飛雲閣(28分)	ホール
5/28(土)	美術講座	石川県立美術館の指定文化財 (谷口 出 普及課長)	講義室
5/29(日)	月例映画会	憂愁の山河慶州 その仏教文化の華(23分)	ホール

5月の全館休館日は16日(月)~18日(水)です。

凛と咲く蓮の花か、あるいは高貴な仏像の蓮華座を思わせる、品格の高い蓋付の香盤です。金や銀、プラチナ箔を細い線や三角、四角、菱形などの細片に切り、器面に貼り付けて文様を作る、**截金**という技法で装飾されています。岩絵の具を用いた華やかな色彩に、箔の明快な線描とシャープな輝きの効果が発揮された美しい作品です。

「御法」は、源氏物語五十四帖のうち、第四十一帖の名称として知られていますが、本来は仏教の法会を意味する言葉であり、また「御法の花」とは法華経を指します。つまり、法華経を目に見える形として表現したものが本作品なのです。

截金は主に仏画や仏像彫刻などの装飾技法として、平安時代に盛んに行われ、鎌倉時代に衰退してしまった技法ですが、作者の西出大三は、これを見事に復興し、昭和60(1985)年に人間国宝に認定されています。東京美術学校(現東京藝術大学)彫刻科木彫部で高村光雲に師事した西出は、在学中より取り組んでいた、藤原時代の截金や仏画・仏像の彩色法の研究成果を展開した独自の「木彫彩色截金」作品の制作を始めました。日本伝統工芸展で活躍する傍ら、研究費のためにデザイナーとして働き、生涯を截金の技術研鑽に捧げました。作品に対する愛情は深く、その大半を手元に残した希少な作家です。

作者の卓越した木彫技術を示す、しなやかな蓮弁のようなその姿は、彩色と截金による繊細な加飾で埋め尽くされ、この世のものではない聖なる花を思わせませす。器体を彫る鑿の一彫り、彩色する筆の一挿し、貼り付ける箔の一枚一枚において、法華経を写すように、心を込めて制作した作者の思いが、文字通り花開いた作品と言えるでしょう。

第5展示室で展示中



きり かね さい しき はち か こう ばん 「み のり」
截金彩色八花香盤「御法」

にし で だい ぞう
西出大三 大正2年~平成7年(1913~95)

昭和49年(1974) 第21回日本伝統工芸展
幅20.0 奥行15.0 高4.0(cm)

— ミュージアムショップ通信 —

春の日差しも暖かく気持ちの良い日はどこかへ出かけたくなるものです。そんな日はどうぞ当館にお越し下さい。ただ今開催中の「石川県立美術館の精華 - 近年の収蔵品から -」は、この10年間で寄附や購入などにより当館が収蔵してきた作品と、より良好な状態で保存しようと修復された作品も含め、展示しております。どうぞご覧ください。

さて、今月は「香雅」を紹介しましょう。これはお香を入れる袋ですが、水引でつくられています。とても繊細で雅な香袋です。様々な色をそろえてありますので、お部屋のインテリアに合わせてお選びいただけます。ショップにお立ち寄りの際は是非ご覧ください。



香袋 各3,000円

次回のコレクション展

甲冑と陣羽織 (前田育徳会展示室)
5月19日(木)~6月19日(日)
加賀・能登の名宝(後期)(第2展示室)
優品選 (第3~6展示室)
5月19日(木)~6月12日(日)

休館日: 5月16日(月)~18日(水)

石川県立美術館だより 第259号

2005年5月1日発行

〒920 0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>